

跡見学園女子大学 学報



平成24年度入学式は、4月3日(火)本学新座キャンパス体育館に於いて午前には文学部、午後にはマネジメント学部が、それぞれ執り行われました。今年は気候の影響が新座キャンパスの桜は漸くつぼみが膨らみ始めた状況であるにも関わらず、入学式の行われた体育館前の桜は新入生を迎えるに相応しく咲き誇っていた事が印象的でした。

本年度の入学者は文学部人文学科206名・現代文化表現学科118名・コミュニケーション文化学科117名・臨床心理学科137名、マネジメント学部マネジメント学科225名・観光マネジメント学科110名・生活環境マネジメント学科72名、計985名の新1年生と5名の3年次編入生、並びに17名の大学院修士課程1年生を加えた1,007名は山田徹雄学長の式辞、山崎一穎理事長の祝辞に迎えられ、大勢の保証人・大学関係者が見守る中、新たな第一歩を踏み出しました。常に前向きな、21世紀を生き抜く『自立し自律した女性』を目指し、充実した学生生活を送って下さい。

記事内容

○学長挨拶	(2)
○学部長挨拶	(3)
○新任教職員紹介	(4)
○退職・異動者紹介	(5)
○学生会情報 ○CLUB NOW	(6)
○ATOMI アカデミア終了報告 ○オープンゼミナール ○留学の記	(7)
○一ザ・就職ー 2011年度就活総括	(8)
○平成24年度入学試験の総括 ○図書館・資料館共催企画	(9)
○スマート・エコビジネス ○新座・学食リニューアルオープン	(10)
○秋期公開講座 ○保護者説明会 ○心理教育相談所講習会 ○オープンキャンパス	(11)
○花蹊の筆墨 ○行事予定 ○跡見英会話サロン ○「ガイドブック2013」 「atomix2013」完成	(12)

学長挨拶

「新年度を迎えて」

学長 山田 徹 雄



別れの3月が過ぎ、出会いの4月となり、新座キャンパスに桜の蕾がほころぶ頃となりました。

本日ここに、跡見学園理事長、理事各位、学園監事各位、校友会、後援会の皆さまのご臨席のもと、跡見学園女子大学第48回入学式を挙げてまいりますこと、教職員の喜びとするところです。荒れ模様の天候のなか、学部1年次入学生、編入学生、大学院修士課程入学生あわせて1007名の新入生を迎えることとなりました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。

そして保護者各位に、あらためてお祝いを申し上げます。

高等学校の教育課程を終え、大学教育へと、一層高度な段階に進むことは、連続的な過程ではありません。

新入生の皆さんは「生徒」から「学生」へと、質的な転換を経験し、「学習する」(learn) 段階から「研究する」(study) 段階へと進化し、深化を遂げました。

跡見学園女子大学の教育の理念は、以下のように謳っています。

学祖跡見花蹊は、日本の誇る伝統文化を踏まえ、豊かな教養と自由な精神を持つ自立した女性を育てようとした。学祖の教育理念を継承する跡見学園女子大学は、時代と社会に対する深い洞察力を養成することが学問の府としての最大の貢献であると認識し、自律し自立した女性を育成するための教育・研究を実現する。

この教育理念によって、歴史認識と社会認識を深めた教養人を本学が育成すること、それによって自立的かつ自律的な人材を社会に供給することを、本学は公約しています。

大学としての姿勢を皆さんに提示すると同時に、大学から学生諸君に二つのことを要請したい。いずれも学問に向かう姿勢に関わることです。

そのひとつは、学ぶことは、大学において完結するものではない、一生続くものである、ということです。一生続くものであるなら、受け身で学修するのではなく、進んで学んで始めて、学ぶことの喜びは湧いてくるでしょう。

つまり、「主体的に学ぶ、自ら進んで学ぶ」姿勢を持っていただきたい、ということです。

大学の授業を受けて、教員から「教わる」と考えてはいけません。教員の話聞くのは、手段にすぎません。「教わる」のではなく、自ら問題意識を持って、学ぶことをしなければなりません。大学の講義は受動的に聴くものではなく、能動的に参加しなければならない、ということです。

このことは、読書に敷衍することができます。文献を読むのはなにかの知見あるいは情報を得ることであって、文献自体を学ぶのではない。

言い換えると、本を勉強するのではない、本で勉強するのだ、ということです。自ら問題意識を持って、読んでこそ、身になる知見が得られるのです。なにも考えずに読書をするとうどうなるか？

リヒテンベルク (Georg Christoph Lichtenberg) は「多読は学のある野蠻人をもたらした」(das viele Lesen hat uns eine gelehrte BARBAREI zugezogen) と喝破しています。

主体性のある読書、主体性のある受講態度こそが、深い洞察をもった人を創ると私は確信しております。

主体的に学ぶ姿勢に加えて、もうひとつ、考えていただきたいことがあります。

皆さんはなんのために、大学教育を受けるのでしょうか？

この問いに対する答えは、ひとつではありません。

例えば、「英語ができるようになりたい」という人がいます。

しかし、身に付けた英語で何をしたいのか、外国の文化を学びたいのか、社会を学びたいのか、あるいは将来就きたい仕事と関係があるのか。英語を学習する目的を明確にしなければ、単に「英語ができるようになりたい」と考えても意味がありません。英語を勉強するのではなく、英語で勉強するようになって初めて、学問の真髄に触れることができます。

大学生には、学問をする理由を考えるのに十分な時間があります。思い悩む時間が持てるのも大学生の特権です。

最後に、アメリカの自動車王、ヘンリー・フォードの言葉を引用して、式辞を結びます。

20歳だろうが80歳だろうが、学ぶことをやめた者は皆、老人だ。学び続ける者は、若いままでいられる。人生において最も重要なことは、心を若く保つことだ。

Anyone who stops learning is old, whether at twenty or eighty. Anyone who keeps learning stays young. The greatest thing in life is to keep your mind young.

若い皆さんが、老けこむことなく、学問を通じて若く、美しい人生を送ることを願ってやみません。

(平成24年4月3日 跡見学園女子大学入学式式辞をもとに修正加筆)

学部長挨拶

悩む自由と恥をかく勇氣

文学部長
大学院人文科学研究科長

小 仲 信 孝

この4月から学部長に就任することになりました。学生のみなさんへメッセージを送ります。

「モラトリアム」ということばがあります。もともとは経済学の用語で「支払猶予期間」のことですが、転じて心理学用語では「人間の成長の中で社会的責任を猶予される期間」を意味するようになりました。日本では「モラトリアム人間」などと表現され、否定的な意味で使われることもあります。本来はそうではありません。

みなさんは今、まさにモラトリアムを生きています。親の庇護を受けながら、社会に出て一人前の人間になることを猶予されているのです。こんな時間はそうあるものではありません。わたし自身ふり返ってみると、学生時代ほど恵まれた時間はなかったと思います。何をやってもいいし、何をやっても許されるのですから。

ところで、みなさんはどんなテーマをもって学生生活を送っているのでしょうか。社会へ出て行くための準備は始めていますか。もし、これといった明確なテーマを持っていなかったら、お勧めしたいことが二つあります。

ひとつは、悩んでみることです。モラトリアムは悩む

ための時間といってもいいでしょう。自分は何者か、何を学べばいいのか、どんな将来を選択すればいいのか。簡単には答えが見つからないことばかりです。だからこそ、大いに悩んで、迷ってみるのです。自分という存在と向き合い、悩みを熟成することが成長の糧となるはず。それが許されるのが学生の特権です。自律的な人間として社会に出て行くためには、学生時代の辛く、しかしどこか甘美な時間が不可欠です。

もうひとつは、どれだけ恥をかけるか試してみることです。わたしは学生の時分いろいろと知ったかぶりをして、見栄を張りました。その結果、笑われることもしばしばでした。しかし、見栄を張ることは大切です。恥をかかないように、内実を埋めようと努力するからです。いい加減な知識や理解を正そうと必死になって調べたり、本を読んだりしました。それで知的興味の範囲がどんどん広がっていきました。学問だけではありません。あらゆることに恥をかきながら挑戦できるのが、社会的責任を厳しくは問われない学生時代ではないでしょうか。

みなさんの悩める時間と成長を見守っていきます。

10周年を迎え日本復興計画を考える

マネジメント学部長
大学院マネジメント研究科長

山 澤 成 康

マネジメント学部は今年4月で10周年を迎えました。2002年4月に開設された当初はマネジメント学科だけでしたが、2006年度に生活環境マネジメント学科、2010年度に観光マネジメント学科ができて3学科体制となりました。2002年度の入学者数は184人でしたが、2012年度は407人と2倍以上に増えています。最近他の女子大にも社会科学系の学部が続々と新設されています。ライバルが増えているという見方もできますが、同じ分野を学ぶ仲間が増えているという見方もできます。マネジメント系の学問分野は今後も社会的な重要性を増していくでしょう。

マネジメント学部のさまざまな教育制度のうち、学生に最も効果があるのはインターンシップ(就業体験)だと思います。2年生全員が夏休みに2週間インターンシップを行います。希望者にインターンシップを提供することと学生全員にインターンシップを経験させることでは労力が全然違います。大変だからこそ効果があるでしょう。特に準備期間が大変です。企業や官庁に出しても恥ずかしくないように、マナーや知識、心構えなどを教えます。その甲斐あってインターンシップを終えると

学生は確実に成長して帰ってきます。受け入れ企業の方々からの感想を聞くと、おおむね好印象です。この制度が10年間破綻することなく続いていることだけでも誇るべきことだと思います。

現在の日本は閉塞感が強い状態です。学部10周年を迎えるに当たり、この閉塞感をどうすれば破れるのか学部教員の方々とは話し合いました。結論は、日本の潜在力をうまく活かせば、企業や政府のマネジメントを変えることで成長することができるのではないか、というものでした。こうした内容を6月2日の10周年記念シンポジウム「ネクストジャパンー日本復興計画を考える」でパネリストの教員の皆さんに披露していただきました。また、多くの教員の協力のもと、「逆転の日本力」というタイトルの本も出版します。こちらは6月中に書店に並ぶ予定です。

学部長として心がけているのは、風通しが良く、柔軟性のある組織を作ることです。よい組織では、みんな楽しそうに働いています。また、よい組織の構成員は働くことに自信や誇りを持っています。そのような学部になるよう努力したいと思います。

学生会情報

学生会本部 会長

ごきげんよう。新座キャンパスの緑も深まりました。新学期が始まり2か月が経ち、新入生の皆さんは学園生活にも慣れてきた頃だと思います。私たち学生会本部も新たな仲間を加え、日々楽しく活動しています。

去年末の「クラブリーダー交流会」では、講師をお招きし『組織内におけるコミュニケーションについて』、『リーダーシップについて』をテーマに研修を行いました。また、各部活動同士が悩みなどを共有し交流を深めあい、とても充実した時間を過ごすことができました。

現在、私たちは6月末に行われる「学生総会・学長と語る会」に向けて準備を進めています。学生総会は皆さんからお預かりした学生会費の決算報告等を行います。2年ぶりの開催となる学長と語る会は、皆さんの質問に学長先生が直接お答えくださる場となっています。より快適な大学生活を送るために、皆さんの積極的な参加をお待ちしています。



3月31日
実施

桜まつり・オープンキャンパス終了報告

平成24年3月31日(土)、本学新座キャンパスにおいて桜まつり・オープンキャンパスが同時開催されました。

昨年は東日本大震災の直後ということもあり残念ながら中止であったため、今年は2年ぶりの開催となりました。本学には45種187本もの桜があり、品種ごとに開花する時期が異なるため、早春から晩春までさまざまな桜が楽しめます。今春は寒い日が続き開花状況が心配されましたが、3月中旬から下旬にかけて咲き始める河津桜は桜まつりに見ごろを迎えました。

本学の桜まつりは、桜観賞に加えて催し物や屋台販売も実施しています。今年も、和室教室にて香席「八重桜香」や、地元野菜の販売、校友会「一紫会」による桜グッズの販売などが行われました。当日は風が強く、急遽屋内での出展となりましたが多くの人で賑わいました。

同日に開催された今年度の第1回目となるオープンキャンパスには、300名近くの高校生・保護者の方にお越しいただき、学内見学や学校説明会を行いました。桜まつりとの同時開催により、普段の学内とはまたひと味違った雰囲気でも盛況のうちに終了しました。



4月5日撮影



オープンキャンパス
全体説明の様子

CLUB Now

焼き物研究部

私たちは作陶技術を向上させることを目標に活動しています。作品は皿、茶碗、マグカップ、置物等とさまざまです。普段は思い思いに作品制作を行っています。当部のメインイベントである岐阜合宿では、コーチにご指導していただきながら全員が共通のテーマで作品を制作します。昨年はティーセットをテーマにポットやコーヒーカップを制作しました。4日間、自然に囲まれたコーチのアトリエで、時間に追われることなく作業に没頭できる有意義な時間を過ごします。



陶芸をしていて最も楽しみな瞬間は、焼成を終えた作品を窯から取り出すときです。思い描いた通りに出来あがらないこともあります。また違った味わいがある良い仕上がりになることもあります。焼きあがってみたいとわからないのが作陶の面白いところです。

秋の紫祭では作品の展示・販売を行います。良い作品を出品できるよう、練習に励んでまいります。

跡見ウインドオーケストラ部

私たち跡見ウインドオーケストラ部は、4年生4名・3年生10名・2年生7名、そして、1年生の新しい仲間を迎えて、盛り上がり活動しています！主な活動は紫祭と定期演奏会、新座市民祭りの3つです。今年度はその他ミニコンサートや他団体との交流も特に力を入れていきます！吹奏楽経験者ばかりということも無く、大学から楽器を始めた部員や、中学でやっていた高校ではやっていた部員もいます。音楽が大好きな人が集まった部活です。「明るく楽しく皆で上達しよう」を合い言葉に和気あいあいと活動しています。何よりも魅力は先輩後輩が皆仲良し！なことでしょうか。新たに演奏する曲を決める時も自分たちで考えて投票するため、学年関係なく意見を言える環境です。

コンクール等には出場しませんが、皆で曲を作り上げる責任感と達成感はとても充実しています。毎週月・水・金曜日の放課後に新座キャンパスで活動しているので、いつでも遊びに来てください！



ATOMI アカデミア終了報告

マネジメント学部は、2012年4月7日、8日、ATOMIアカデミアに行ってきました。大学に入ったばかりの1年生に大学生活の楽しさを知ってもらうための合宿です。1年生約400人と教員、先輩合わせて約500人が参加しました。

桜が咲き始めた土曜の午後新座キャンパスを出発し、新潟県の「グリーンピア津南」までバスで移動しました。現地は雪がまだ2メートルも積もっており、別世界でした。学部長挨拶、各学科の活動内容の紹介などがあった後、夕食を食べました。その後、アドバイザーの先生のもとで、グループごとにミーティングを行いました。教室とは違う雰囲気の中で、自己紹介、現在の悩み、将来の夢などを話し合いました。翌朝は、学科ごとのプログラムがあり、無事に桜の花咲く新座に帰ってきました。

今回も30人もの先輩が同行し、活躍してくれました。さまざまなイベントが円滑に進められるように補助し、履修や大学生活に関する相談役になってくれました。1年生にアカデミアの感想を聞くと、「早い時期に友達ができてよかった」「履修の不安が解消された」と好評でした。

留学の記

H23年度跡見学園女子大学海外留学で韓国のデグ市にあるデグ大学に1年間滞在をし、研究する機会を得た。

最初設定された研究テーマとしては、「雇用」と「経営」の日韓比較研究であり、今回の海外留学の期間中は、主に韓国の企業（組織）における雇用の実態を経営学の観点から眺めることにあり、その研究調査対象を釜山にある大手財閥企業系列のLホテルを選んだ。

Lホテルの実態調査を決めた最大の理由とは、韓国企業における雇用問題、なかんずく非正規雇用問題および雇用と経営の韓国的問題点を浮き彫りにさせるために適切な研究対象であることと判断したからである。

さて話は変わるが、久しぶりに韓国の大学を訪ねてみるといくつか自分の昔の時代とはやや変わった風景も見られた。そしてそれはそのまま日本の大学との比較の視点からの風景でもあって大変勉強になったといえよう。

韓国の大学はまずキャンパスが広いことが特徴であるといえる。日本と比べると、韓国の土地の狭さや全人口少なさ（日本の3分の1）から考えると理解しがたい現象であるかのようにも見える。しかし、韓国社会における大学の位置づけは日本とやや異なり、特に地方の中心が大学という存在でもあって、大学を中心に地域が発達する傾向もあるとされる。そして大学のキャンパス内部はほとんどすべて地域住民にも公開されており、自由に入出入りする風景は珍しくない。韓国では大学だけでなく、小中高の敷地内にもすべて公開であり、夜や朝早く小中高の運動場や大学キャンパス内で走ったり運動したり、散歩する地域住民はいくらでもみられる。そして

オープンゼミナールご案内

跡見学園女子大学大学院マネジメント研究科（修士課程、共学）では、大学院で学ぶ内容や授業の雰囲気を知ってもらうため、「オープンゼミナール」を開設しました。大学院教員が持ち回りでゼミナールを担当します。教員がテーマについて簡単に説明した後、参加者全員で話し合うという形式です。定員15人程度、参加費無料で、社会人が利用しやすいように、6限（18時20分～19時50分）に開きます。

春学期は5月10日（木）から2週間おきに6回行います（募集は定員に達したため締め切らせていただきました）。秋学期は10月から6回を予定しています（詳細は大学ホームページを参照してください）。

マネジメント研究科は多様な職業領域で指導的役割を果たし、高度なマネジメント能力を実際に発揮することのできる人材を養成することを目指して、平成18年度に設置されました。平成24年度からは、社会人が学びやすいように、授業を月～金の5、6限と土曜日に開講しています。

跡見学園女子大学 マネジメント学部 教授 崔 勝湜

う一つ日本の大学と異なる風景がある。それは、教員の研究室などが入っている大学本部や図書館が大学の建物の中で目立っていることである。とくに図書館はほとんどの場合、24時間公開されていて、いつも学生らが席取り争いをするくらい朝早くから夜遅くまでよく勉強する。よく勉強することのその背景と中身については厳密な議論が要することなのでここで詳しくはいえませんが、高い失業率を背景とする就職の厳しさがあり、その勉強の中身とはほとんど英語に関するものであるということだけは紹介しておこう。

また韓国の大学の学部生はもちろん大学の中心的役割を果たしているものの、学歴社会・韓国においてはやはり大学院がかなり活性化されており、大勢の大学院生を中心に活発な議論と研究が行なっていることもあって、筆者の今回の研究生活にも彼らの協力と議論がかなり役に立ったことでここに記して感謝の意を申し上げたい。そして無事に最初設定された研究テーマに従い、調査と学術論文の完成ができたことを含め、このような貴重な機会をつくってくださった、跡見学園女子大学に感謝の意を申し上げます。

（付記）写真は、2011年10月7日、国立江陵原州大学に招待され、筆者が行なった特別講義の時の一枚である。



－ザ・就職－

2011年度採用戦線を振り返り、跡見生の就活を総括する

就職部長 大野 二期 (マネジメント学部)

2011年度の就職活動は、日本経済を取り巻く七重苦を反映して、依然として厳しさは変わらないものの、結果としては前年の最厳冬期を脱出した感がある。

1. 雇用環境は、厳しさが残り、常態化している

日本経済は08年の夏以来の世界経済の大変調から緩やかな回復過程にあったが、少子化による日本人の減少傾向、政権交代、未曾有の東日本大震災、など戦後の日本の強みを発揮してきた社会的な枠組みが、一斉の総点検を迫られている。原発ゼロに象徴される電力供給も未確定の中で日本企業の海外展開は一層進行し、国内雇用環境は慢性的な厳しい状況になっている。

(1) 個別の就職活動のさらなる長期化：

就職希望の学生たちは、まずは安全パイ確保のために幅広い就職活動を行い、優秀な学生は複数企業からの内定を獲得し、希望企業以外は予定通りの内定辞退となる。このため、普通の企業は必要人員の最終確定まで時間を要し、候補者を引きとめることになり、従来は形式的な最終段階での審査が本当の最終審査になる等、従来ない形の採用方法が多くなっている。4年生は最終審査で落とされる方式の繰り返しで、就職活動は長期化し、その精神的苦労は大変なものとなっている。

(2) 就活支援活動の拡大・継続：

本学でも09年度より2カ年で、主に3、4年生を対象に就職に必要な能力を身につけさせる狙いで、文科省による『就職支援プログラム』事業を実施した。11年度は、この二カ年の成果を踏まえて、本学のプログラムを拡充し継続実施した。従来からのメニューへの追加措置であり、跡見生のもつ共通の弱点補強には効果的で、受講者の何人かは、このプログラム実施直後の就職活動で内定を確保するなど、この効果を裏付けている。

(3) 「跡見学園」による卒業生への継続支援措置の継続：

就活継続中の卒業生を引き続き支援するために、「跡見学園」は緊急対策として、この1年間の期間限定で、3月末時点で未内定の就職希望の卒業生を対象に週3日雇用の長期雇用者（雇用契約つき）を採用する支援措置をとった。週の残りの日は就職活動を実施してほしい、との考えで、雇用を通して大学事務を実際に体験して技量の向上を図るとともに、卒業生が早くに正式の社会人になるための応援の措置である。昨年度も数名が外部の正規雇用を確保し転出した、効果的な意義ある支援である。

2. 2011年度就職活動の総括

(1) 全体的な総括

「続行する大暴風」の採用戦線は、雇用の場を極端に収縮

させており、一部の優秀な学生は例年通り、複数の内定を確保するものの、それは一部に止まった。本年5月の厚生労働省・文部科学省から公表された「大学生の就職率」(4月1日現在)では全国で93.6%〔私立大(女子)は91.7%〕となり、前年同期比2.6%増で、2000年以降の最低であった前年値を上回った。

(2) 跡見生の成果

①【就職内定率】(求職者数に対する就職者数)は92.1%(昨年91.2%：以下も同様)であった。卒業生896名(20名減)、就職希望の学生745名(10名増)のうち、「内定を得て」各職場で新入社員として、第一歩を踏み出すことができた学生686名(16名増)の割合である。学科別を含む内定率の全体像は表1である。最後まで頑張った学生達の努力の成果がこの数字に示される。

②【就職希望率】(卒業生に対する求職者数)は83.1%(2.9%増)である。経済的にも精神的にも自律する女性を育成していくことが、「時代を担う女性人材の供給源」としての本学の使命である。学部別には進学傾向が高い臨床心理学科を抱える文学部が80.0%(2.0%増)、マネジメント学部が90.0%(5.3%増)とそれぞれ、大台を回復した。

③【卒業生進路掌握率】は100.0%である。卒業生一人ひとりの卒業時点での、対象者全員の進路を掌握する事は、「育てた人材」を社会に送り出す大学として、極めて重要な使命と責任である。今後卒業生のアフターケアを意識した支援活動のためには不可欠なものと認識している。昨年度は大震災の影響で卒業式を中止したため、卒業式の際に提出させる進路届が郵送に切り替えられ、年度末時点で、一部の学生の状況が不確定であった。今年度は以前の状況に回復している。この成果は、趣旨を十分理解し協力していただいた卒業生及び学内外の多くの方々の賜物である。

表1 2011年度就職実績

(単位人、%)

学 科	卒業生	就職希望者	就職者	内定率
人文学科	389	309	276	89.3
コミュニケーション文化学科	102	88	83	94.3
臨床心理学科	124	95	89	93.7
文 学 部	615	492	448	91.1
マネジメント学科	228	205	196	95.6
生活環境マネジメント学科	53	48	42	87.5
マネジメント学部	281	253	238	94.1
全 学	896	745	686	92.1
前 年 度	916	735	670	91.2

保護者の皆さまにお願いしたいこと

最近、書店で「親子で…」といったタイトルで、家族一丸での就活支援本が目立ちます。経済の低迷、特に製造業の不振を背景に、厳しい雇用環境は改善される兆しはないための現象ともいえるでしょう。さらに、08年で高校進学率が96.4%、大学進学率53.2%と大学生が特別な存在でなくなったため、大学生が卒業段階に至っても自立できていない表われでしょうか。(株)リクルートのアンケート(注)では、学生は保護者に期待する支援として、「金銭面」(55.1%)、「そっとしておいて」(31.8%)「社会人として心構え」(28.6%)がベスト3の項目です。まずは学生の自らの活動を見守り、そっと支援することが必要ではないでしょうか。就職部においても、従来からの就活支援のプログラムの再評価を行い、より効果的な対策を講じていきます。学生たちが、自ら存分に行動し、納得のいく就職活動を達成できるように、今後も引き続き支援していくことが、就職部の果たすべき役割です。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

(注) (株)リクルート「就職活動実態調査」

平成24年度入学試験の総括

入試部長 村上 雅巳

平成24年度入学試験の結果は右表の通りである。学部1年次入学試験においては合計で2,085名の志願者があり、募集人員870名に対して約2.4倍の志願者があった。また、入学者は985名で、募集人員に対する入学者の割合は1.13倍であった。

志願者を入試種別でみると、推薦入学試験355名、AO入学試験223名、一般入学試験1,506名、帰国生入学試験1名であり、一般入学試験の志願者が72.2%を占めている。入学試験全体の志願者に対する一般入学試験の志願者の割合はほぼ昨年度と同様であり、志願者の7割を超えている。

本学の一般入学試験は、本学独自の入学試験を行うA方式と、大学入試センター試験を利用するB方式とがある。日程の違いにより、A方式は日程順にA1・A2・A3の3回、B方式は日程順にB1・B2の2回行っている。それぞれの志願者数をみると、A方式ではA1:514名、A2:201名、A3:119名であり、B方式ではB1:615名、B2:57名である。日程の早い入学試験に多くの志願者があることは例年通りである。また、平成24年度はB方式の志願者が増えていることが特徴である。

学部学科別でみると、募集人員に対する志願者の割合が多い学科は、文学部では現代文化表現学科、マネジメント学部では観光マネジメント学科であり、平成22年度に設置した両学科が引き続き堅調である。

以上の結果を受け、平成25年度入学試験においては、一般入学試験の各方式間の募集人員を志願動向に沿って見直すとともに、A1方式では出題科目に「地理」を加えることにより、志願者がより多様な分野から受験科目を選択できるように変更する。

平成24年度入学試験結果

●学部1年次

学部	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文	人文	180	436	421	379
	現代文化表現	90	283	274	184
	コミュニケーション文化	120	268	261	241
	臨床心理	120	291	280	204
	学部計	510	1,278	1,236	1,008
マネジメント	マネジメント	210	465	451	421
	観光マネジメント	90	226	219	182
	生活環境マネジメント	60	116	114	104
	学部計	360	807	784	707
合 計		870	2,085	2,020	1,715

●学部3年次 編入学・学士入学

学部	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文	人文	若干名	0	0	0
	現代文化表現	若干名	1	1	1
	コミュニケーション文化	若干名	6	5	3
	学部計	—	7	6	4
マネジメント	マネジメント	若干名	3	3	1
	観光マネジメント	若干名	1	1	1
	生活環境マネジメント	若干名	1	1	0
	学部計	—	5	5	2
合 計		—	12	11	6

●大学院

研究科	専 攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本文化	8	3	3	2
	臨床心理学	12	30	27	16
	研究科計	20	33	30	18
マネジメント	マネジメント	15	1	1	1
	研究科計	15	1	1	1
合 計		35	34	31	19

図書館・資料館共催企画『桜の本と標本展』開催について

平成24年桜まつりにあわせて、図書館と花蹊記念資料館の共催企画として『桜の本と標本展』を開催しました。会期は平成24年3月21日(水)から5月31日(木)〈図書館は4月27日(金)まで〉で、新座キャンパスの図書館と花蹊記念資料館第2展示室を会場として開催されました。

図書館は桜関連図譜などの書籍に、日本花図繪(23点)を展示しました。

資料館では、アルコール液に開花状態の桜を浸した、珍しい「液浸標本」(8点)や、さく葉標本に加えて、資料館所蔵の跡見玉枝の絵画『桜花鴛鴦図』など8点の絵画・書を展示いたしました。

3月31日開催の桜まつりには多くの来場者で賑わいました。





「スマート・エコビジネス」(ハタノシステム寄付講座)

平成24年度春学期、3、4年生を対象とした総合科目の一つとして「スマート・エコビジネス」(ハタノシステム寄付講座)が開講しました(担当教員:マネジメント学部生活環境マネジメント学科 宮崎正浩教授)。15回の授業のうち最初と最後を除く13回は外部のゲスト講師による講演というユニークな授業です。現在約300人の学生が受講しています。

■授業の目的

東北大震災と東電原子力発電所の事故によって、私たちは電気の大切さを実感しました。このため、地球温暖化の防止のためにも、省エネと再生可能エネルギーの大幅な導入に今以上の努力する必要があります。このような中で、家庭や業務部門(民生分野)からのCO₂排出量は、日本全体の排出量の4割を占めており、増加傾向にあります。このため、情報通信技術を活用してスマートに(賢く)省エネし、再生可能エネルギーを活用しようとする「スマート・エコビジネス」への取り組みが各方面で行われており、将来は非常に大きな市場となることが期待されています。

本授業は、私たちの未来の社会を変え、地球環境問題の解決にも大きく貢献する「スマート・エコビジネス」について、その現状と課題を学ぶことを目的とします。

■授業の概要

最初にスマート・エコビジネスの意義やそれを推進する政府の政策などを学びます。担当教員によるイントロダクションの後、東京工業大学の柏木孝夫教授、また政

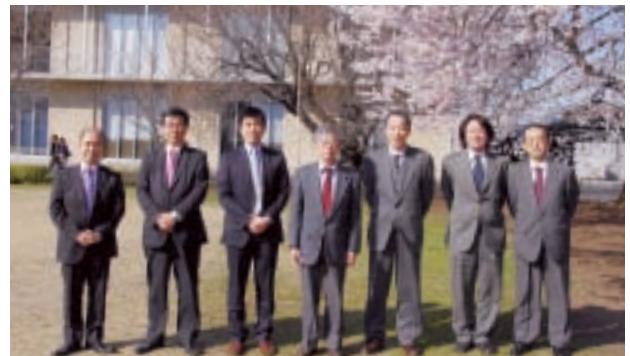
府からは経済産業省、国土交通省、農林水産省の政策担当者が講演します。

次に、太陽光発電、バイオマスエネルギー、電気自動車、スマートハウスなどの様々な技術とその統合化(システム化)の現状と課題を学びます。京セラソーラーコーポレーション、日立製作所、三菱自動車工業、東京ガス、ヤンマー、積水ハウス、レーモンド設計事務所、東芝、NTTファシリティーズの専門家が講演します。

最後にスマート・エコビジネスの将来の課題を担当教員が総括します。

*

本授業は、株式会社ハタノシステムの寄付講座として開講されています。同社は、自家発電事業から始まり、現在では環境・省エネルギー分野の事業を展開中の会社で、社長である波多野容子さんは、跡見学園女子短期大学生活芸術科の卒業生です。今般は後輩である跡見の学生に急成長するエコビジネスを学んでほしいということで本授業のために寄付をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。



新座・学食リニューアルオープン

平成24年度から新しく新座キャンパスの学生食堂がリニューアルしました。

デザインコンセプトは跡見レッドを基調とした華やかで明るく清潔感のある憩いの場。机のレイアウトは大人数のグループでも皆で向かい合ってランチを楽しめる丸テーブルや、窓の景色を眺めながらゆったりと座れるソファテーブル、一人でも周りを気にせずランチをできるカウンター式テーブルなど、ニーズによって様々なランチが楽しめます。

椅子や食器には跡見のサクラマークがモチーフされ、見た目も楽しませてくれます。

もちろんメニューもリニューアルをし、健康米や選べる小鉢など豊かな食生活で健やかなキャンパスライフをサポートします。



秋期公開講座のご案内

9月下旬より、下記のように、秋期公開講座を開講いたします。講座の詳細は、8月下旬に大学HPに掲載する予定です。土曜の午後に、緑豊かな開放感あふれる新座キャンパス、都心でありながら静かで落ち着いた文京キャンパスで、知的探求をしてみたいかがでしょうか。みなさまのご参加を、お待ちしております。

●教養コース（新座キャンパス）

平成24年10月13日、20日、27日(土)
13時～15時

●パソコンコース（新座キャンパス）

平成24年9月29日、10月6日(土)
13時～16時10分

●語学コース（新座キャンパス）

平成24年10月6日～12月15日（毎週土）
（11月3日は除く）
13時半～15時

●教養コース（文京キャンパス）

平成24年11月10日、17日、24日(土)
13時～15時

照会先 学務部教務課

心理教育相談所講習会のご案内

跡見学園女子大学附属心理教育相談所主催による講習会を以下の日程で開催いたします。

本学教員が、日常の「こころ」に関するテーマをとりあげて行います。

どうぞお気軽にご参加ください。

実施日時	時間	テーマ	担当者
7/3(火)	13:00～14:30	不登校への対応を考える	山口豊一
7/24(火)	11:00～12:30	うつからの社会復帰 —本人、家族による うつの乗り切り方、 支え方—	酒井佳永
9/10(月)	13:00～14:30	教育しようと意気込 むと教育できなくな るのはなぜか	藤澤伸介
9/20(木)	13:00～14:30	高齢者とのコミュニ ケーション	阿部洋子
9/24(月)	13:00～14:30	心を癒すグループの 力	野島一彦

詳しくは、ホームページをご覧ください。

跡見学園女子大学附属心理教育相談所

(<http://www.atomi.ac.jp/daigaku/shinri/index.html>)

保護者説明会のお知らせ

本学では高崎・新潟・宇都宮・仙台・文京の5会場において、保護者の方を対象とした「保護者説明会」を開催しております。説明会では教育や進路支援の実際につきましてご説明申し上げ、本学の教育に関しまして御理解を深めていただくことを目的としています。

また全体説明後には個別相談ブースを設け、就職・奨学金・成績/履修・国際交流など各担当者が個別に相談に応じます。

会場	期日
高崎会場	8月25日(土)
新潟会場	8月26日(日)
宇都宮会場	9月1日(土)
仙台会場	8月28日(日)
文京会場	10月20日(土)

Open Campus

2012年度

オープンキャンパスのご案内

●オープンキャンパスイベント内容

大学説明・個別相談・模擬授業・パソコン体験・ランチ体験・在学生と語ろう

AO入試説明・キャンパスツアー など

文京キャンパス

7月7日(土)	13:30～17:00
7月21日(土)	13:30～17:00
7月29日(日)	10:30～15:30
8月19日(日)	10:30～15:30
8月25日(土)	10:30～15:30
9月22日(土)	10:30～15:30
11月24日(土)	13:30～17:00

新座キャンパス

6月16日(土)	13:30～17:00
8月18日(土)	10:30～15:30
11月3日(土)	10:30～15:30 ※紫祭と同時開催



個別相談の風景



◆ 行事予定 ◆

7月	17日(火)、18日(水)、 21日(土)、23日(月)、 26日(木)、27日(金)	授業評価期間
	16日(月)	月曜日祝日授業実施
	24日(火)、25日(水)	補講日
	27日(金)	春学期通常授業終了
8月	28日(土)、30日(月)~ 8月3日(金)	春学期定期試験期間
	4日(土)	春学期定期試験予備日・ 追試験日
	6日(月)~31日(金)	夏季休業 (集中講義等あり)
	5日(日)~9月5日(水)	夏期海外語学研修 (英国・スターリング大学)
9月	5日(日)~30日(木)	夏期海外語学研修 (中国・北京語言大学)
	1日(土)~25日(火)、 29日(土)	補講期間 (集中講義等あり)
	26日(水)	9月期卒業式
	26日(水)~28日(金)	秋学期オリエンテーシ ョン期間
10月	1日(月)	秋学期通常授業開始
	1日(月)~2日(火) 3日(水)~4日(木)	秋学期1次履修登録 申請期間
	8日(月)~9日(火)	秋学期2次履修登録 申請期間
	11日(木)~12日(金)	履修登録訂正期間
11月	3日(土)~4日(日)	紫祭

平成24年度 跡見英会話サロン開室お知らせ

国際社会に向けて、学生のより実践的な英会話コミュニケーション能力の向上を目的に開設された跡見英会話サロン。今年度は、以下のスケジュールで開室しています。

- 文京キャンパス 月・火・木・金曜日
2号館3階 M2306教室 12:10~13:40
- 新座キャンパス 月・火・水・木曜日
1号館1階 学務部インフォメーションコーナー
12:15~13:45

※いつでも自由に入退室できます。

※原則として授業期間中の上記曜日に開室。

- ・就職活動で英語の自己PRが必要
- ・海外旅行の前に旅行で使えるフレーズを覚えてもらいたい
- ・リスニング力を高めて TOEIC のスコアを伸ばしたいなど、英会話サロンでのテーマは自由です。個人のニーズに合わせて英会話を習得できます。昨年度の秋学期からは文京キャンパスでも週4日開室となり、ますます英語に触れることができるようになりましたので、ぜひ活用ください。

花蹊の筆墨(36)

和歌短冊 七十七になりて 一葉 大正5(1916)年
跡見純弘コレクション
跡見学園女子大学花蹊記念資料館蔵

跡見純弘顧問からは、平成14(2002)年、15(2003)年、18(2006)年、21(2009)年に計452点の寄贈を受けた。当館では、これらを「跡見純弘コレクション」と総称し、独立したコレクションとして位置づけている。

本作は、この「跡見純弘コレクション」の中の一つである。学園創立者跡見花蹊が、大正5(1916)年に77歳をむかえたときの心情を詠んだものである。36.5×6.0cmの紅葉を散らした短冊に、年齢を感じさせない力強い筆致が印象的な作品である。

跡見花蹊の喜寿記念として、跡見女学校では、5月8日に跡見花蹊喜寿祝賀会を、同月9~11日に柳町校舎(現・文京区小石川1丁目23)を会場とし、バザーを開催した。本作が制作された年、跡見花蹊は代表作となる書軸『朱文公勸学文』を跡見女学校に寄贈したのをはじめ、バザーへの出品物、頒布品の原画制作など旺盛な制作活動を行った。(花蹊記念資料館 学芸員 渡辺泉)

花蹊の筆墨(35)中、誤りがありました。お詫びして訂正します。
含章可貞括囊无咎承天而時行坤道其順乎

七十にな、のよはひをかきね来つ
なにをなしたる事もなくして

花蹊

跡見のすべてをご紹介「ガイドブック2013」
「atomix2013」完成しました!!

オープンキャンパスではもちろん相談会等でも配布しております。入試課へご連絡いただければ配送いたします。詳しくは048-478-3338(入試課直通)へご連絡ください。



● 編集後記 ●

新たな気持ちで出発した入学式から2カ月が経ち、桜の木が緑に染まっていくように学生たちも生活に慣れ、跡見の色に染まりつつある今日この頃。学生生活の中で今後どのような色に染まっていくのか、ぜひ跡見で自分の色を探してみてください。今後も学報では、皆様に「跡見の色」をお伝えしていきます。